

2021年12月10日

世界銀行が発行するサステナビリティボンド 「サステナブル・ディベロップメント・ボンド」への投資について

大樹生命保険株式会社（代表取締役社長 吉村 俊哉、以下「当社」）は、この度、世界銀行（正式名称：国際復興開発銀行（IBRD））が発行する豪ドル建サステナブル・ディベロップメント・ボンド（以下「本債券」）への投資を実施しました。

本債券は、「極度の貧困の撲滅」と「繁栄の共有の促進」の実現に向けて、世界銀行が途上国のために取り組む開発プロジェクトへの支援を目的としています。世界銀行は、栄養改善を人的資本^(※)形成や経済成長促進の鍵と位置付けており、本債券への投資資金は、世界銀行による低中所得国政府への融資を通じて、栄養不良問題の解決等、開発途上国の持続的発展を目的とするあらゆる分野のプロジェクトに活用されます。

栄養不良は世界的な課題となっており、妊産婦や乳幼児、そして経済的に窮する家庭などに対する保健・栄養・教育サービスの提供やその質を向上させる取組みにより、発育阻害の減少および将来の経済生産性の改善が期待されます。日本政府もかねてよりこうした問題に取り組んでおり、本年12月に日本政府が主催する国際会議「東京栄養サミット2021」においては、世界銀行も参加機関の一つとして支援を表明しています。

当社では、これまでも環境債（グリーンボンド）や社会貢献債（ソーシャルボンド）、ESG投信などへの投資を行ってきました。今後も引き続き生命保険会社としての社会的責務をふまえ、資産特性に応じて環境・社会・ガバナンスの課題を考慮した資産運用を行い、環境や地域・社会と共生し、経済・企業の安定的な成長と社会的価値の調和的な発展を目指します。

<本債券の概要>

発行体	世界銀行（国際復興開発銀行）
格付	AAA（S&P）
発行総額	20百万豪ドル
償還期間	15年

(※) 人的資本とは、ある国で生まれた子供が、将来社会の一員としてどれくらい生産性に貢献できるかを問う概念。乳幼児死亡率、学習年数、子どもの発育阻害有症率・成人生存率等が重要な構成要素とされる。

【世界銀行が取り組むプロジェクト事例】

インドネシア：社会扶助改革プログラム



インドネシアの5歳未満の子どもの3人に1人は、同国の近年の力強い経済成長にもかかわらず、発育阻害に苦しんでいます。どの家族もより確実に保健・栄養・教育サービスを受けられるよう、また、貧困から抜け出すことができるよう、社会扶助事業改革を実現していきます。本プロジェクトは、他の補完的な社会扶助事業との連携を促進することにより、0～6歳の子どもの栄養状態を改善することを目的と

しています。また、本プロジェクトでは、新型コロナウイルス感染拡大に対するインドネシア政府支援のための追加融資も実施しています。

プロジェクトの詳細はこちらをご覧ください（英語）：

<https://projects.worldbank.org/en/projects-operations/project-detail/P160665>

<https://projects.worldbank.org/en/projects-operations/project-detail/P172381>

グアテマラ：栄養と健康プロジェクト



グアテマラの5歳未満の子どものほぼ2人に1人（47%）が発育阻害で苦しんでいます。これは世界でも非常に高い割合で、その主な要因として、妊産婦の健康状態の悪さ、子どもの食育環境の問題、安全な水へのアクセスと衛生設備の不足、医療サービスの質（特に先住民族の伝統や文化的慣習によってサービスの質が影響を受ける問題）などが挙げられます。

本プロジェクトは、生後1,000日間（妊娠期間中～2歳まで）に必要な栄養改善サービスに特に重点を置き、先住民の人々の発育阻害を減らすことを目的としています。

プロジェクトの詳細はこちらをご覧ください（英語）：

<http://projects.worldbank.org/P159213?lang=en>

【本件と関連性の深いSDGsテーマ】



***上記プロジェクトは、事例のご紹介のみを目的としており、今回の世界銀行債券（世銀債）の資金の活用を
上記プロジェクト又はその分野に限定するものではありません。**

以上